

消防署の車両について

Q. 救急車のサイレンはなぜ「ピーポー」という音なの？

A. 以前は消防車と同じ「ワー」というサイレンでしたが、患者さんへの配慮もあり、比較的やさしいサイレン音になったようです。

Q. 救急車は何台あるの？

A. 高梁市消防署へ3台、西分駐所へ1台を配備しています。救急要請が重複し全ての救急車が出動する際は、他の緊急車両を使用したり、状況によっては近隣市町の消防署に応援を要請したりしています。



救急要請が入るとすぐに出動

Q. ポンプ車以外の車両は何がある？

A. 救助工作車、化学消防ポンプ車、ブーム付多目的消防ポンプ車、水槽車、指揮車などさまざまの車両があります。



救助工作車



ブーム付多目的消防ポンプ自動車

Q. 消防車に何を積んでいる？

A. ホースや筒先はもちろんのこと、ホースカー、空気呼吸器、ロープ、ガス検知器、はしご、排煙装置、発電機、照明器具、ハンマーなど消火活動に必要なさまざまな器具を積載しています。これらの積載品は毎日の車両点検時の確認に加えて、月に1回は機能や数量の総点検を実施しています。消防士は、どこに何があるのかをしっかりと覚えていきます。



消防車の積載品

消防を支える活動

高梁市消防団

日頃はそれぞれの仕事を持ち、いざというときに活動する消防団員は、地域住民にとって最も身近なヒーローです。市内では、団本部をはじめ19分団の組織の中で1381人(8月1日現在)の団員が活動しています。火災や風水害などへ対応するための訓練も欠かしません。また、女性の力も消防団に必要不可欠となっております。現在28人の女性消防団員が災害時の後方支援や火災予防、救急指導などの活動を行っています。

消防本部公式ツイッター

消防本部が取り組む行事や予防広報などを発信することで、利用者の防災意識を高めるとともに、災害時の情報収集を行うために「消防本部公式ツイッター」を開設しています。ぜひフォローしてください。



公式 Twitter

火災について

Q. 火災の発生は何月に多い？

A. 市内では過去10年で300件の火災が発生しており、最も多いのは4月の55件(18.3%)で、次いで3月の54件(18.0%)となっています。その多くはたき火や枯草焼きが原因で起きた火災です。

Q. 火災のときに身に付ける装備はどのくらいの重さがあるの？

A. 空気呼吸器と防火衣などの装備を含めると約10kgになります。真夏でも同じ装備で活動するため、暑さ対策も必要です。



防火衣(後ろ側)



防火衣(前側)

Q. 火を消すとき、消火器の薬剤や水は炎にかければいいのか？

A. 炎にかけても消えません。炎や煙に惑わされず、燃えている火元を消すようにしましょう。

Q. 建物火災から避難する方法は？

A. 姿勢を低くし、できるだけ早く屋外へ出ることが重要です。火災で発生する煙は有毒ガスを含み、吸い込むことで体が動かなくなる場合があります。煙は横に移動する速度が毎秒0.3m〜0.8mで、上に移動する速度は3m〜5mと速くなります。

その他

Q. 携帯電話でも119番はつながる？

A. 局番なしで「119」をダイヤルするとつながります。ただし、市境などでは他市の消防署へつながることもあります。その場合でも高梁市消防署へ転送されるため、電話を切らずに指示に従ってください。

Q. 119番は世界共通？

A. 共通ではありません。世界ではさまざまな番号が使われていますが、そのほとんどは日本と同じ3桁の数字となっています。

Q. 市内で年間どれくらいの出動があるの？

A. 平成30年の救急出動件数は2085件で、最も多かったのは急病の1134件でした。火災は14件でしたが、火災として取り扱わなかった現場を含めると28件の出動がありました。

行政放送(消防署だより)

消防士が火災・救急件数、消防に関する情報を紹介する「消防署だより」を2週間に1回放送しています。

過去の放送分は市ホームページまたは公式チャンネル(YouTube)で見ることができます。



公式 YouTube



勤務時間中の消防団活動への便宜や入団促進など、事業所として消防団への協力が広く社会貢献につながると認められる場合、消防団の推薦などにより表示証を交付しています。市が表示証を交付している事業所は8月1日現在で19事業所です。



表示証交付式